

東広島市と原爆の関わり

1945年8月6日8時15分、広島市に原子爆弾が投下されました。東広島市から仕事や学徒動員で広島市へ行っていた人も、多く被爆しました。また、壊滅状態となった広島市へ救援に向かった人もいました。

賀北部隊

8月6日の夕方、招集を受けて西条農学校(現、西条農業高等学校)に250名の隊員が集まりました。翌7日早朝に西条駅を出発、列車が不通となっていた海田駅から広島市内までは徒歩で、被爆者の救援に向かいました。広島城跡を中心に、被爆軍人等の死体焼却処理、横川方面の防護、救援活動に当たりました。



賀北部隊が集合した西条農学校跡地(現中央公園)にある「賀北部隊原爆被災者救援之碑」

傷痍軍人広島療養所(現東広島医療センター)

8月6日午前9時頃、20名程がトラックで療養所を出発し、青崎小学校(広島市南区)や八丁堀、紙屋町付近で救護に当たりました。また、療養所にも多くの被災者が列車で搬送され、治療を受けました。



傷痍軍人広島療養所(現東広島医療センター)から見たさきのご雲(彌田藤太郎撮影/広島原爆被災者撮影者の会提供)

賀茂海軍衛生学校

今の黒瀬町乃美尾にあった賀茂海軍衛生学校では、8月7日夕方に広島市への出動命令を受けました。必要な衛生資材をトラック2台に積み、隊員約70名が8日早朝、衛生学校を出発しました。9日昼近く、横川駅付近に到着し、救護活動を行いました。



横川での賀茂海軍衛生学校の職員、生徒による救護活動(Mitsugi Kisida撮影/岸田哲平提供)

東広島市原爆資料展示室

東広島市原爆被爆資料保存推進協議会が所蔵する、被爆者の遺品や手記、写真等、原爆に関する資料を展示しています。

入場無料



場所

東広島市市民文化センター2F
(サンスクエア児童青少年図書館隣り)
JR西条駅から徒歩約10分



東広島市 総務部 総務課

〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号
TEL 082-420-0907 FAX 082-420-0415

東広島市の戦争遺構

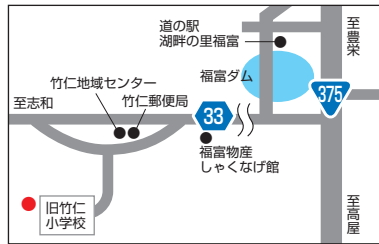
～平和へのメッセージ～



東広島市

① 友情の碑

1944年から始まった疎開。福富地区では、1945年に久芳、竹仁、上戸野の各国民学校で呉市からの疎開児童を受け入れたという記録が残っています。旧竹仁小学校（旧竹仁国民学校）の校庭には、疎開から60年を記念して建てられた「友情の碑」があります。地元の子とも疎開してきた子どもが終戦前後の半年間に培った友情は、今も生きています。



② 中野村聴音照射場（特設見張所）

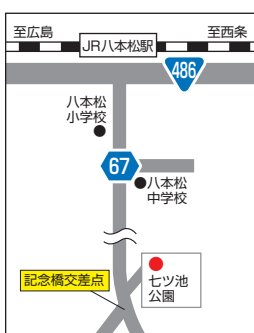
太平洋戦争での米空軍機来襲に備え、日本各地に建設された聴音照射場の一つで、敵機などの監視をしていました。地元では「海軍山」と呼ばれています。水源が確保でき、海拔514メートルの高度から広島市や呉市への眺望が開けていたことから、この場所が選ばれたと考えられます。司令棟や燃料庫の建物は現存し、兵舎跡やトイレ跡、貯水槽跡などの遺構もあります。原爆投下当時の日記には、広島市上空へ向かうB29や、原爆が炸裂した時の様子が詳しく記されています。



③ 見送りの地

原村（現在の八本松町原地区）の若者が出征^{※1}するとき、近隣住民は記念橋まで歩いて見送りました。地域の女性で組織された国防婦人会や退役した軍人たち、小学校高学年の児童などが参列しました。50人以上の住民が万歳三唱をし、軍歌を歌って見送っていました。七ツ池公園内にある現在の記念碑は、1998年に、元々あった記念橋近くから移転した時に、新たに建立されたものです。

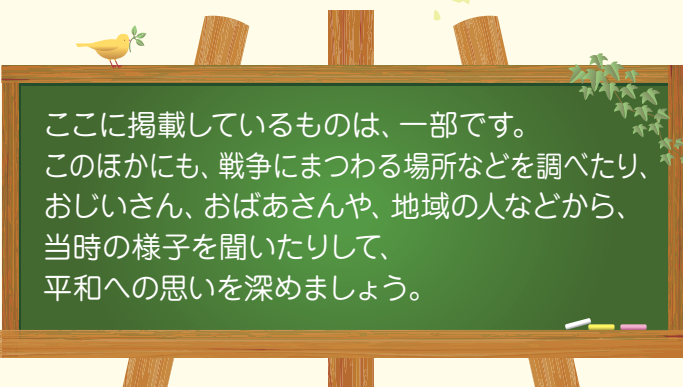
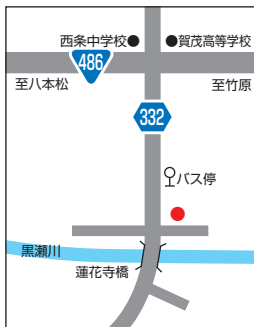
※1 兵士として戦地に行くこと。



④ 兵士壮行式場跡の碑

戦時中、召集令状^{※1}を受け取った若者は親元に帰り、付近の住民に見送られ出征して行きました。見送る住民は手に手に旗を持ち、出征者とともにこの地まで歩いてきたそうです。「万歳」「頑張れ」の聲がこだまする中、戦争で弟を亡くした人が「死ぬなよ」とこっそり声を掛けてくれた、という体験者の証言が残っています。

※1 兵として軍隊に呼び出すための命令書。

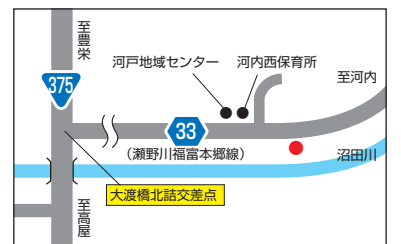


身近に残る戦争の痕跡に触れて、当時の人々の気持ちを考えてみましょう。

⑨ 標柱（見送りの地）

河内町河戸の沼田川沿いにある2本の石柱。この場所は対岸の山の上にある群戸八幡神社の遙拝所^{※1}でした。また標柱は注連柱^{※2}として、戦時中に必勝祈願が行われていました。若者が出征するたびに住民が集い、河内駅まで歩いて見送ったそうです。戦死者の遺骨をお迎えする時も、皆で河内駅まで迎えに行ったとの証言が残っています。

※1 神社や寺などを、遠くから拜むための場所。
※2 神社などにけがれているものが入らないようにするための柱。



⑧ 板城村聴音探照所（特設見張所）

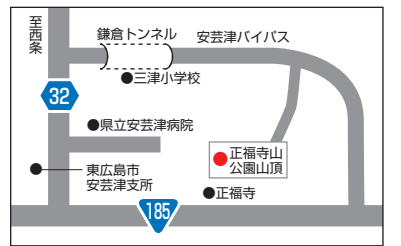
太平洋戦争中、敵の飛行機を大迫山で投影によって見つけ出すための、板城地区唯一の軍の施設でした。軍機密のため、詳しい資料が残っていません。広島に原爆が投下された1945年8月6日は「広島上空にて落下傘3個投下、7倍稜鏡^{※1}の1分割位に変針中B29、見えたる瞬間強烈なる閃光に驚けり」という報告が残っています。

※1 軍で使用していた双眼鏡の名称。



⑦ 防空監視哨跡の碑

日中戦争時、国内各地に設置された防空監視哨。三津町（現在の安芸津町三津地区）には1937年8月に設置命令が下されました。当初は役場に配置されましたが同年11月に正福寺山山頂に完成し、以後は民間防空の施設として使われました。16歳から55歳までの警防団員を除く男子全員が敵機を監視する任務に当たりました。



⑥ 仏様の防空壕

正福寺医王殿の真裏にある防空壕は、仏様（薬師如来）のために造られました。「いざという時は、皆で仏様を守ろう」と、1945年5月に信徒や漁業関係者が中心になって建築しました。れんがとコンクリートで造られ、扉は鉄製という頑丈なつくりでした。実際に仏様が防空壕に移されることはありませんでしたが、戦況が悪化した当時の様子が見え隠れします。

